

おもしろいね！が、きっとみつかる。

シニア世代の地域デビューを応援！  
～アッティーヴォ～

# attivo

みやシニア  
活動センター  
通信 vol.28  
(平成29年 7月発行)

## 宇都宮市上河内地区特集号

上河内地区は市の北部に位置し、「おはぐろさん」の愛称で親しまれている羽黒山があります。標高458メートルの低山で、山頂には羽黒山神社があり、車でも頂上付近まで登ることが出来ます。11月に行われる梵天祭は、江戸時代の中ごろに収穫を感謝する行事として始められ、約300年の歴史があり、孟宗竹と真竹の竿の先端に房を付けた「梵天」を法被姿の若者たちが担ぎ、街なかを練り歩いたのち、山頂の神社に奉納するお祭りは広く知られています。また、「上河内地域交流館 ほたるの里 梵天の湯」も源泉かけ流しのお風呂として有名です。

今回は、自然豊かで鬼怒川水系がもたらす肥沃な土地がひろがる上河内地域で、さまざまな活動・活躍をしているシニアの方を取り上げました。



### 上河内地区で活躍されている方々

- ① だいだらぼう…「だいだらぼうの会」会長 大越典夫さん
- ② 旧上河内町の輝くキャリアウーマン  
…「ほたるの里 梵天の湯」(株)かみかわち温泉振興会課長 佐藤きよ子さん
- ③ 四国88ヶ所歩き巡礼の旅…星 壽壽さん

### 地域デビューコーナー

◆元気の出る「アフリカンダンスが大好きです。」

…「栃木県シルバー大学校中央校アフリカンダンスOB会」会長 吉澤民彦さん

「attivo (アッティーヴォ)」とは、イタリア語で「活動的な、行動的な」という意味です。

上河内地区の取材先選定については、羽黒山に興味があったため、地域でさまざまな活動を行っている「だいだらぼうの会」を取材することになり、会長の大越典夫さん宅を訪れました。

会長宅は、国道293号線氏家大橋近くの奇しくも字並び違いの県道239号線下小倉交差点手前、下小倉集落の羽黒山が目の前に見える野路のかたわらにありました。

「だいだらぼうの会」は、上河内地区まちづくり協議会の役職者の多くが参加して、平成21年5月に25名余で発足しました。これまで、まちづくり協議会が行う数々の事業の主体を担い、現在は19名で活躍されています。

設立して最初に手がけたことは、上河内地区の名所、旧跡の調査を行い、その資料を元に写真パネルを作成して、産業祭など多くの来場者が訪れる場所で展示を行い、上河内地区のPRを行ったことです。

上河内といえば、「羽黒山」と「梵天祭り」で名が知られていますが、まちづくり協議会の「梵天の里歩こうマップ」等は、「だいだらぼうの会」が企画・作成したものです。「だいだらぼうの会」は、継続的に看板の設置や旧日光街道の整備、サイクルピクニックの支援、羽黒山散策路の整備、アジサイロードの草刈り等のさまざまな活動を行っています。

「だいだらぼうの会」の名称については、県道藤原宇都宮線から羽黒山参道コースの途次にある

「だいだら坊の岩」から名付けたのだということです。その由来は、昔「だいだら坊」という雲をつくような大男が、出羽の羽黒山の土を藤ヅルで編んだモッコに乗せ東のほうへ歩き出し、下野国河内郡（旧上河内）に着いた頃、つまずいて転んだ拍子に藤ヅルが切れて土が落ちてしまった。このモッコの土が羽黒山で、その中にあったのがこの大岩といわれています。

また、上河内の羽黒山といえば、なんと言っても11月に行われる、「羽黒山



【大越さん宅から羽黒山を望む】

梵天祭り」であり、各地区の若者たちが梵天を担ぎ、色を違えた法被姿で練り歩き、山道を駆け上る勇壮な祭りを、是非、この目でみたいものです。

私自身が山村生まれであり、山には馴染みが深く大好きです。現在、住まいの宇都宮南郊外から、朝な夕な南東に筑波山が、北西に日光の男体山の前山の如く佇んでいる羽黒山を見るのが、日課になっています。羽黒山には何回も登っており、取材前に訪れたところ、前年の梵天祭りで使われた「梵天」が神社前の広場に立っていたのが印象に残っています。

メモ：「だいだらぼう」は、「ダイダラボッチ」とも呼ばれ、日本の各地で伝承される巨人である。

山や湖沼を作ったという伝承が多く、元々は国づくりの神に対する巨人信仰がダイダラボッチ伝承を生んだと考えられている。（ウィキペディアより）



【「だいだらぼうの会」会長の大越典夫さん】

## ② 旧上河内町の輝くキャリアウーマンをご紹介します

取材:石井特派員



【“毎日笑顔!”がモットー 佐藤きよ子さん】

お会いした佐藤きよ子さんは66歳。若々しく、元気はつらつ。旧上河内町の温泉「ほたるの里 梵天の湯」の課長さんとして活躍の傍ら、地域活動にも取り組み、「毎日笑顔！」をモットーに、仕事、家庭、ボランティアを見事にこなしている佐藤さんに、前向きな、楽しいお話をお聞きしました。

前の仕事を終えた15年前、「ほたるの里 梵天の湯」の創業から携わり、年間約25万人ものお客さんを迎えている「梵天の湯」の仕事は多忙を極め、事務、経理、勤務のシフトづくり、接客等もなさるとか。土、日曜日が繁忙日の上、早番や遅番と勤務時間も不定期となり、ご主人の理解があつてのことと感謝されています。

家庭円満の秘訣は、「お互いのことに干渉しないこと」。

その通りですね。ご本人は謙遜されていますが、今や「梵天の湯」の顔のような存在ですね。

「元気で過ごしたい。身体の続く限りやっていきたい。何かの形で地域貢献をしたい。」と、地域とかかわるボランティア活動をしているそうです。

まず、佐藤さんが代表を務める「よさこい梵天」。10年前、県よさこい踊り活性化協議会会長の大森先生指導の「よさこい梵天」に変わり、同期の人たちと現在8名で活動中。

毎年、8月最終土曜日の「上河内ふれあいまつり」でステージに立ち披露。他に老人会や8月の「松風台まつり」、「ふるさと宮まつり」など、年に5～6回参加し活動。大通りや舞台などで思い切り身体を動かし、メンバー全員で軽快なリズムに合わせて踊ると気分もすっきり若返るとのお話。お祭りも楽しいし、お客さんの反応も感じながら、やり甲斐も感じ、実に爽快な気分になり、辞められないそうです。でも、徐々に身体がきつくなってきている、とか。最近は、河内地区やさくら市のグループと共同で参加することもあるそうです。



【“よさこい梵天”と仲間の皆さん】

次は、イベントの進行役。毎年、11月23日の羽黒山神社の梵天祭りで、梵天を奉納する地域の紹介や急な参道を汗まみれになりながら、孟宗竹と真竹で作った梵天を力合わせて駆け上がっていく担ぎ手の様子を臨場感一杯に、3年前から佐藤さんがお祭りの会場内に届けています。短時間に放送するのは難しいが、「よかったよ」の反応にやり甲斐も感じているとか。

更に、宇都宮市との合併後、上河内という地名は「上河内地区市民センター」と施設名などに残るのみ。この地に因んだ祭りや伝統などの地域のよさを、村・町時代を知っている人々が残していかなければ。「今やらないで何時やる。今でしょう！」という思いで、「いだらぼうの会」活動に加わって一緒に活動しているそうです。そして、現在の仕事を辞めてからも続けられるようにと、2年前からコーラス活動にも加わり、年4回「梵天の湯」のステージに立ち、お客さん参加型の活動もやっているとか。一層、活動の幅が広がっていきそうですね。今後のご活躍をお祈りしています。

### ③ 四国88ヶ所歩きお遍路の旅

取材：古谷野特派員

多くの人が仕事を辞めたら、暇が出来たらやってみたいと思ったことがある中の一つが、四国88ヶ所めぐりではないでしょうか。市内の上河内地区に住む星壽壽(ほし としじ)さんは、これまでに2回、四国お遍路道を歩かれました。

お遍路の目的は、健康祈願や自分探し、何かに行き詰った時などと、人それぞれあるのですが、星さんは「ただ漠然と、お遍路をしてみたかった。」と何か目的を持ってのことかと思いきやそんなお答えが返ってきました。しかし、お話を伺うと「事前に色々調べて計画を立て、実行するまでには5～6年かかりました。四国88ヶ



所の距離は、コースによっても増減はありますが、約1200～1300キロになり、そこを一日平均30キロ歩いて40日余かかります。私は、平成21年の1回目の時が46日間で約1300キロ余、26年の2回目が42日間で約1200キロ余を歩きました。多い日で40キロ、少ない時でも20キロ前後は歩きました。」とお聞きし、歩きでのお遍路は簡単には出来ないと改めて思い知らされました。

【四国88ヶ所を2回歩いた星 壽壽さん】

更に、歩き遍路が出来る条件は「自分が健康であること。」「家族や身内に心配がないこと。」そして、最も重要なのが、1カ月半近く家を空けるため「奥さんの理解を得ること。」でした。

道中は、足の裏全体にマメが出来て悩まされ、しかし、休むとその痛さが余計感じるので、ひたすら痛さをこらえ歩き続けると、不思議なことに2週間位たつと、ある日ふとその痛さを感じなくなる日が来るのだそうです。

天候については、「雨の日は多くの方が嫌な日と感じますが、普通の雨ならお遍路さんにとってはクールダウンになり嬉しく、一番つらいのは強い風が吹く日です。」とのこと。

また、「歩いているときは、特に何も考えずひたすら歩くだけ。」そして、歩きとおしたとき思うことは「過ぎた日は戻らない。明日のことを考え悩んでも仕方がない。一日一日を悔いなく生きることが大切なことだと強く感じます。」とのお話でした。

4回以上、歩いての四国お遍路をした方は「先達さん(せんだつさん)」と呼ばれ、お遍路をする人々をみちびく指導者になれる資格が得られるそうなので、星さんには健康に留意され、更なる挑戦を期待したいです。

このほか、星さんは県内外の神社・仏閣巡りや小杉放菴研究舎の会員としての活動、また、地元上河内地域の活性化のため尽力するなど、多方面にわたりご活躍をされています。



【四国88ヶ所遍路大使の任命書】

※星さんは、「じゅじゅやんの暇人日記」というブログを立ち上げ、神社・仏閣巡りのことや様々な出来事などの記録をアップされていますので、ぜひ、ご覧ください。

## ◆◆ 地域デビューコーナー ◆◆

### 元気の出る「アフリカンダンスが大好きです。」

— シルバー大学校中央校アフリカンダンスOB会 — 取材：肥後特派員

今、地域のイベントや福祉施設などのボランティア活動で、一番人気のあるものは何かご存知ですか。マジックも人気があります。ハワイアンダンスも人気があります。民謡も喜ばれます。でも、それ以上に大きな拍手が起こるのは「アフリカンダンス」です。アフリカンダンスは見ている方々に元気を与え、心をウキウキさせる。それらが人気のある所以でしょう。



【会長の吉澤民彦さん】

特に、会員の約80%を超える女性のパワーは絶大です。こういう中で、このOB会をまとめる会長の吉澤民彦さん（69歳・栃木県シルバー大学校中央校34期生）は、大きな体を駆使して非常にダイナミックに踊ります。吉澤会長さんのお話によると、「アフリカンダンスは、シルバー大学校に入るまでやったことはなく、その存在すら知りませんでした。当時やっていた太極拳の仲間から誘われ、体を動かすことに魅力を感じクラブに入部しました。もう、かれこれ4年半になります。年に15回から20回、介護施設等にボランティア活動にも行きます。今では、アフリカンダンスを生活の中で切り離すことはできません。」

アフリカンダンスクラブOB会は、栃木県のアフリカンダンスの第一人者、石川典子先生の指導を受けています。「原始的でシンプルで温かいアフリカのリズムは、生命力そのものです。ストレス社会の中で疲れたからだを心はこのダンスで開放してほしい。」とのことでした。

会員の元気な皆さんからも、お話をいろいろ聞きました。

♥手塚美代子さん（65歳）

年間50～60回、ボランティア活動に参加。見てくれる方々に、笑顔と元気をあげることが出来るからやりがいがある。

♠蛸嶋義春さん（68歳）

リズムで心が高揚してくる。自由な表現で踊ることができる。これが、アフリカンダンスの楽しいところだ。アフリカンダンスを通して、友達がたくさん出来た。

◆小田島弓子さん（68歳）

汗を流して動き、ストレスを発散し、心身ともにすっきりする。これがいい。

♣三品房子さん（68歳）

老若男女、誰でも楽しめるこのダンスを通して、ボランティア活動に参加できるようになった。



【ダイナミックなアフリカンダンス】

♥高尾ちか子さん（68歳）

健康の続く限りやり続けたい。楽しくて元気が出る。

♠黒田優子さん（67歳）

肩こりが解消された。からだも心も健康になり、さらに積極的になった。新しい自分を発見することができた。

◆Oさん（女性 72歳）

意識しないで気楽に踊れるところが好き。性格が変わった。人と会うことが楽しくなった。

♣SYさん（女性 70歳）

自分から外に出るようになった。体力がついてきた。

♥UAさん（女性 69歳）

自由に踊れるところが楽しい。体力の続く限り、年齢に関係なく続けたい。

♠SMさん（女性 67歳）

今までの自分の日常からは無かったリズム感が好きだ。80歳までやりたい。

◆TAさん（男性 66歳）

昨年、41回のボランティア活動に参加。個性のある踊り方がいい。

♣IYさん（女性 64歳）

自由に踊れるところ、間違ってもいいところが好き。体力と運動ができる限り続けたい。

♥STさん（女性 65歳）

弾けることができる。友人が増えた。

♠KKさん（女性 64歳）

仕事の合間に練習に来ている。生活にメリハリがあっていい。振付が間違ってもなんとなくOKなところが好き。

◆TTさん（女性）

自分の好きなように自由に踊れる。年に25回のボランティア活動をしている。

♣NMさん（女性 63歳）

大勢の仲間と楽しく踊れることがうれしい。気分が明るくなった。

♥FSさん（男性 64歳）

リズムに合わせて体を動かし、大声で叫んでいると気分がスカッとして、すっぴんの自分に戻れる。人前に立つ時に上がらなくなった。

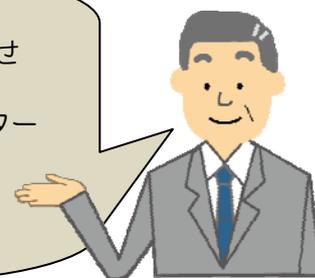
皆さん、マイペースで楽しみながらやっているレッスン。笑顔で、そして笑い声が絶えませんでした。



【今回集まってくださった  
アフリカダンスクラブOB会の皆さん】

《事務局からのお願い》

- 「みやシニア活動センター通信」をご覧になったご意見・ご感想を、お聞かせください。今後の参考とさせていただきます。
- 地域で活躍するシニア世代の方の情報がありましたら、みやシニア活動センターまでお知らせください。
- ご意見・ご感想・シニア特派員等に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。



○ 発行／編集 みやシニア活動センター（宇都宮市 保健福祉部 高齢福祉課）

住所：宇都宮市中央1丁目1-15 宇都宮市総合福祉センター8階

電話：028-639-8585 ファクス：028-639-8575

ホームページ：http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp